

農業農村工学



農林水産部 農山村振興課
農村整備計画班
技師 伊藤 嘉史

経歴 採用7年目

- H28年 農林水産部 農山村振興課
農村整備計画班
- H27年 福島県相双農林事務所
農村整備部 農村整備第二班
(被災地派遣)
- H25年 山本地域振興局 農林部
農村整備課 生産基盤班
- H24年 入庁
山本地域振興局 農林部
農村整備課 ふる里づくり班

ある日のスケジュール

- 8:10 出勤
- 8:30 朝礼・メールチェック
- 9:00 農業農村整備事業の新規採
択希望地区について振興局
担当者からヒアリング
- 11:00 ヒアリングした地区の重点・
懸案事項のとりまとめ
- 12:00 昼食
- 12:20 散歩
- 13:00 農業農村整備事業の新規採
択希望地区の現地調査へ
- 16:00 帰庁、現地調査の復命書作成
- 17:15 退庁
- 18:00 同僚と懇親会

わたしの職場はこんなところですよ

農山村振興課では、農業の生産基盤の整備を行う農業農村整備事業の計画策定や、農地等の保全と活用による多面的機能の発揮を支援する日本型直接支払制度、中山間地域の農業と農山村の維持に取り組む中山間地域対策や、土地の境界や面積を調べる地籍調査業務などを行っています。4班体制で、20名が在籍していますが、農業農村工学職の職員がほとんどですので、業務上で分からない事があっても先輩や同僚になんでも気兼ねなく聞くことができ、若手も安心して仕事に取り組める職場です。

わたしは今、こんな仕事をしています

農業農村整備事業の計画策定に関する業務に携わっており、農業農村整備事業の中のほ場整備事業を担当しています。ほ場整備事業とは、農作物の生産性向上による効率化・安定的な農業経営の確立と、将来の農業生産を担う経営体を育成するため、ほ場の大区画化や排水条件の改良を行います。現在、秋田県では高収益作物の産地づくりと、農地中間管理機構による農地集積、ほ場整備を三位一体で進める「あきた型ほ場整備」を推進しています。この先進的な取組を参考にしようとする全国からの視察者も多く、高い評価を得ているところで

秋田県のここが好き！

真鯛・黒鯛の好釣場であり、魚とのやりとりが気軽に楽しめる磯場がたくさんあります。また、海だけでなく、魅力的な山、川が揃っており、自然を教材として子育てにも適した県だと思っています。

農業農村工学職のやりがいはここ！

新聞で、『田んぼの区画整理に夢が膨らむ』という記事に目が留まりました。それは、ほ場整備事業の計画が立ち上がった時に「先祖代々の土地はどうなるんだ」「収量が減るのではないか」といった理由で反対運動をしていたが、整備後のほ場を見て、「見事に完成した広大な田んぼで、孫達が大型農業機械を操作する姿を見るのを私は今から楽しみにしている」と事業に満足したという方からの投書でした。

これを見たとき、農業農村工学職員の手がけてきた事が農家の方の役に立っているんだと強く実感でき、大変うれしかったです。

農業農村事業は主に県が事業実施主体となり行う事業です。農業農村工学職は専門的な知識が求められますが、日々の業務のみならず、学会や研修会などを通じて技術を向上させる楽しみがあります。

入庁して何か大変だったことはありますか？

採用4年目に、東日本大震災の災害復旧のため福島県南相馬市に一年間派遣されました。公共事業の発注システムや、製図システムが秋田県とは異っており、1からすべてを覚えられない上に、災害時のため事業費・業務量が非常に多く大変でした。秋田で上司や先輩に指導してもらった事を思い出し、大きなトラブルなく、一年間勤め上げる事ができ、派遣先からも感謝されました。

オフは何をしていますか？

季節を問わず黒鯛を求めて海釣りへ出かけしています。回数はそれほど多くありませんが、夏は登山、冬はスノーボードに行っています。外出するのも好きですが、家でんびり過ごすのも好きです。

秋田県職員採用試験の受験を考えている方へ、ひと言！

県職員は県内各地に転勤があり、不安に思う方もいるかとは思いますが、転勤の苦勞以上に今まで住んだことのない土地で、様々な経験をして県内各地に詳しくなることも非常に大きな楽しみです。

ぜひ、県職員になって一緒に未来の秋田をつくりましょう。

農業農村工学



秋田地域振興局 農林部
農村整備課 ふる里づくり班
技師 近藤 広貴

経歴 採用7年目

- H30年 秋田地域振興局 農林部
農村整備課 ふる里づくり班
- H28年 仙北地域振興局 農林部
農村整備課 生活基盤第一班
- H27年 仙北地域振興局 農林部
農村整備課 生産基盤第三班
- H25年 北秋田地域振興局 農林部
農村整備課 生活基盤班
- H24年 入庁
北秋田地域振興局 農林部
農村整備課 ふる里づくり班

ある日のスケジュール

- 8:10 出勤
- 8:30 朝礼・メールチェック
- 9:00 設計コンサルタントと打合せ
- 10:30 業務委託設計書作成
- 12:00 昼食
- 13:00 地元説明会のため八郎潟町
へ公用車出張
- 14:00 説明会開始
- 15:00 説明会終了
- 16:00 帰庁、説明会の報告書作成
- 17:15 退庁
- 18:00 スノボーを満喫しにナイターへ

わたしの職場はこんなところですよ

農村整備課は、ほ場整備や農業用施設(ため池、頭首工等)を整備する農業農村整備事業を行う部署で、事業採択に向けて調査・計画を担当する「ふる里づくり班」、事業採択後に設計や工事監督を行う「生産基盤班」、事業に伴う用地交渉や関係機関である土地改良区の指導等を行う「管理班」の3班で構成されています。この他にも中山間地域を支援する事業や、近年多発している異常気象に伴う農地・農業施設の災害復旧事業等も行っています。各班で業務内容は異なりますが、綿密な連携が必要なので、コミュニケーションをよく取っています。課内の雰囲気もよく仕事のしやすい職場です。

わたしは今、こんな仕事をしています

「ふる里づくり班」に所属し、事業採択に向けた調査・計画を担当しています。農業農村整備事業は、地元からの要望に基づき事業計画を策定します。そのため、幾度となく地元説明会や打合せを行いつつ、計画策定に必要な調査や設計業務の発注、関係機関との協議を行います。また、生き物調査というものもあります。これは、事業実施に当たり、環境との調和に配慮する必要があり、既存の自然環境を把握し、地域の特性に応じた対策を検討するため、調査の一環として行っています。地元の意見を汲み取りながら、その地区に合致したより良い事業計画を策定できるよう心がけています。

秋田県のここが好き！

1つ目「お酒がおいしい！」全国的に有名な日本酒も多くあり、何より酒蔵1つ1つ個性があってどれもおいしいです。

2つ目「夏はBBQ、冬はスノボー！」四季折々で夏にはおいしいお肉や海鮮でバーベキュー。冬は、田沢湖・阿仁・矢島等々でそれぞれ違った雰囲気のゲレンデでスノボーやスキーを楽しむことができます。

3つ目「ドライブが楽しい！」鳥海山麓の仁賀保高原や男鹿半島の寒風山、入道崎など多くのドライブコースがあり、また、温泉や道の駅なども多くあるので温泉巡りも楽しめます。

農業農村工学職のやりがいはこちら！

なんと言っても事業が完了して地元の方から「ほ場整備をやって良かった！」や「ありがとう！」など感謝の言葉を掛けられたときは、大きなやりがいを感じます。

農業農村整備事業には多種多様な事業・工種があるため、様々な知識が必要になります。そのため、日々勉強ですが、経験したことを応用して新たなことに取り組めるようになったり、自分がスキルアップしているのを実感しやすく、自分自身の成長を楽しめるのもひとつのポイントだと思います。

秋田県庁を就職先に選んだ決め手は？

将来は秋田の農業にどんな形でもいいから関わりたいと考え、農業高校に進学しました。2年生の時に進路ガイダンスがあり、秋田県庁の農業農村工学職というのを知りました。ほ場整備やため池・頭首工等の農業用施設の整備等を行い農家の皆さんを支援するという内容でした。私も行政面から秋田の農業を支え、発展させていきたいと思い、これが決め手となり、秋田県庁を受験しました。

秋田県職員採用試験の受験を考えている方へ、ひと言！

仕事を通して、上司や同僚、地域と多くの繋がりを持つ、やりがいのある職場だと思います。

秋田をもっと良くしたい、秋田の素晴らしさをもっと発信したいという方はぜひ、私たちと一緒に働きましょう！